

住民を常に見守る女性ヘルスワーカーたちが命を救う

スワプナ・マジュムダール（インド）

サドナ・クマリさんが隣人から連絡を受けたのは深夜でした。その隣人の息子の妻は 16 歳で妊娠中でしたが、自宅で出産したということです。インド・ビハール州のシーターマリー県にあるベルサンド地区で公認ヘルスワーカーとして働くサドナさんは、知らせを聞いてその家に駆け付けました。早産で生まれて弱っていた赤ちゃんは、残念ながら助かりませんでした。政府統計によると、シーターマリー県における乳幼児死亡率は、出生数 1,000 人あたり 106 人に上るということです。

サドナさんは、赤ちゃんの死に心を痛めました。しかしただ嘆き悲しむばかりでなく、これを機にその隣人に対してある説得を試みました。それは、まだ若い息子の妻が心身共に完全に回復するまで、次の妊娠を急かさないようにするということでした。そして、次に赤ちゃんが産まれるまで最低 3 年は待つという約束を、無事に取り付けました。3 年後には、息子の妻のピンキーさんも 19 歳になり母親になる準備ができてだけでなく、実際に乳児死亡率のリスクも下がるからです。

それから 3 年間、サドナさんはその家族を注意深く見守り続けました。同時に、経口避妊薬を与えるとともに性と生殖に関する情報を提供し、ピンキーさんが適切に家族計画を立て、母親になるのを遅らせることができるよう支援しました。そして今年の 1 月、ピンキーさんは元気な女の子を地域のプライマリーヘルスセンターで出産し、サドナさんの努力はついに実を結んだのです。

この例のように、この地区の女性ヘルスワーカーたちは状況の改善に大いに貢献していますが、同時に数多くの障害にも直面しています。中でも最も困難な問題が、親がまだ年端もいかなない娘たちを結婚させるという、この地域社会における慣習です。シーターマリー県のベルサンド地区にあるボラマール中学校では、入学の時点では女子生徒数が男子生徒数を上回ります。しかし、この数字からは真実は見えてきません。8 年生（14 歳）になる頃には、女子生徒たちが学校に来なくなっていることが目立つようになります。それは、早期婚がこの地区に蔓延しているからです。

シーターマリー県は、地理的に北側がネパールとの国境に接しているため、ビハール州の中でも外部からの影響を受けやすく治安が不安定な県の一つです。同県は移民比率が高いというだけでなく、越境および州際的人身取引の被害が起きやすい場所としても知られています。州内でも最も HIV の感染率が高い同県では、早期婚の件数も多く、未成年者の脆弱性が高まっています。

ボラマール中学校の教師たちによると、学校に来なくなった 8 年生の女子生徒は全て、親が決めた相手と結婚させられたということです。同校で過去 5 年間にわたり 6 年生から 8 年生までを担当した教師のヴィニータ・クマリさんは、早期婚は大きな問題だと指摘します。しかし早期婚については、村のしきたりのひとつとして誰も問題視していないのが現状だという

ことです。結果として、幼くして結婚する女子生徒の大半が、それ以降は勉強を続けられなくなっています。

グライチ・クマリさん（14 歳）はボラマール中学校の 8 年生でしたが、学年テストを受けることもできずに結婚させられました。その友人でクラスメイトのピンキー・クマリさん（16 歳）も、同じ 8 年生の学年テストを受けた一月後に結婚を余儀なくされました。二人とも勉強を続けることを望んでいたのですが、それが叶うかどうかは分かりません。夫と義理の両親から許しが得られた場合のみ、引き続き教育を受けることができるのです。

同じ中学に通うアヌラダさんの場合は、8 年生になることさえもできませんでした。7 年生だったアヌラダさんは、自らの結婚に関して何の発言権も与えられず、強制的に中退させられたのです。

公式統計は、周縁化された層の子供たち、とりわけ女子の中退率が 66%と非常に高いことを示しています。また、インド全国家族健康調査（2015～2016 年）の結果、シーターマリー県の 20 歳～24 歳の女性の 50.5%は 18 歳になるまでに結婚しており、15 歳～19 歳の女性の 11.7%は調査の時点で既に子供がいるか妊娠中だったことが分かりました。

少女が早期婚をし、そこに性と生殖に関する健康についての情報を十分に得られていない状況が重なると、あまりにも多くの子供をあまりにも早くに産み育てるという悪循環から抜け出せなくなります。10 歳から 14 歳までの少女の妊産婦死亡率は、20 歳から 24 歳の女性の場合と比較して 5 倍にも上ります。インドでは、毎年およそ 6,000 人もの若い母親が命を落としていると推定されています。その上、10 代の母親から生まれた乳幼児は、母親が 20 歳以上の場合と比較して、幼児期に死亡する可能性ははるかに高くなります。

このような状況の中で人々の意識に変革を起こし、母親と赤ちゃんの生死を分ける重要な存在となっているのが、サドナさんのような女性ヘルスワーカーたちなのです。



中退を余儀なくされる少女